

在来マス類種苗生産試験 (アマゴ種苗生産配布事業)

團 昭紀・尾田文治

平成 8 年 10 月に採卵し、繰り越した稚魚を継続飼育し、春稚魚(平均体重 4.3g)として 4 月現在 72,000 尾を生産した。このうち、平成 8 年 5 月に河川放流用として 40,000 尾、養殖用種苗として 26,000 尾を有償配布した。

採卵用親魚は、平成 7 年 10 月に採卵し、親魚候補として継続飼育し、平成 9 年 10 月まで飼育した。なお、採卵時における雌親魚の平均体重は 400g であった。

採卵には、雌魚 1,788 尾から 1,100,000 粒(1 尾平均 615 粒)の卵を得て発眼卵 990,000 粒(発眼率 90%)を生産した。このうち民間養殖業者に 540,000 粒を有償配布した(表 1)。

小歩危淡水養魚場における飼育水は、現在 2 水系が使用され、このうち 1 号水系は、谷合の表流水を集めて使用し、平成 9 年 4 月～平成 10 年 3 月における水温は 8.3～16.7 の間で変動した。2 号水系は、小河川の表流水を取水し、水温は 2.8～20.9 の間で推移した。水系としては例年同様 1 号水の方が水温変動も少なく水量的にも安定していた。

表 1 平成 9 年度アマゴ生産状況

採卵用親魚(雌)	1,788 尾
採卵用親魚(雄)	400 尾
採卵数	1,100,000 粒
1尾あたりの採卵数	615 粒
発眼卵数	990,000 粒
発眼率	90 %
養殖用種卵(売却)	540,000 粒
春稚魚用発眼卵	120,000 粒
春稚魚用浮上卵	100,000 粒
浮上率	83 %